

# 山形・後田うしろだ（旧月記がつき）遺跡

- 1 所在地 山形県鶴岡市大字寺田字後田・月記
- 2 調査期間 一九八九年（平一）九月
- 3 発掘機関 山形県教育委員会
- 4 調査担当者 阿部明彦
- 5 遺跡の種類 自然流路跡
- 6 遺跡の年代 一〇世紀～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（鶴岡）

後田遺跡は鶴岡市街地の西端部に位置している。この付近は、近年の大型開発事業に伴い、急速に市街化が進んでいる地域である。

遺跡は、西・東・南の三方を羽田丘陵から延びる低丘陵に囲まれた平野部にあり、大山川や湯尻川が形成した河間低地の微高地に立地している。特に湯尻川は幾度かの流路変遷が窺われ、幾筋もの微高地が形成されたと考えられる。標高は一

六mを測る。

後田遺跡の調査は、県営圃場整備事業に伴う緊急発掘調査であり、山形県教育委員会が一九八九年の国庫補助事業として実施したものである。調査の性格上、圃場整備計画に伴う揚水機場の建設が予定された区域を対象としている。

調査の結果、遺跡の範囲は、遺物の散布状況と現状地形を加味して、東西二八〇m南北二六〇mと推定できる。検出した遺構は河川である。出土遺物は整理用コンテナ二六箱分で、内容としては須恵器・赤焼土器・中世陶磁器・近世磁器・石製品・木製品・金属製品などである。木製品の遺存状態が良好で、木簡三点、履物二点の他、箸状木製品が多数出土した。

なお今回報告する木簡が出土した遺跡は、一九八九年当初月記遺跡と命名した。しかしその後、本遺跡のすぐ西に隣接する後田遺跡では、一九九四年に行なわれた東北横断自動車道酒田線の建設に伴う事前調査で、幅一〇m長さ四五mの河川と推定される溝が検出され、厚さ一・一～一・三mの覆土からは、卒塔婆や呪符の他、漆器・履物などの木製品が多数出土した（本誌第一九号）。一九八九年に検出した河川は、後田遺跡で検出された河川の続きと考えられるので、本遺跡の名称については、月記遺跡を後田遺跡に改めて報告するものである。

8 木簡の釈文・内容

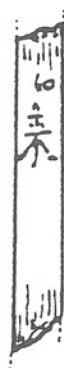
- (1) ・「南無阿弥□」  
 ・「阿弥陀如来」  
 166×26×2 061
- (2) 「□□□□」  
 204×24×3 061
- (3) ×如来  
 (112)×16×3 081

本遺跡で確認された河川とみられる溝跡は、出土卒塔婆などから、年代の上限が室町時代と考えられる。この河川は昭和一〇年代までは存在していたと地元住民が記憶しており、その後の基盤整備で流路が変わり埋没したものと考えられる。遺跡の性格としては、一九九四年調査を含め、多数の卒塔婆や呪符、履物などの木製品が出土していることから、旧河川の河岸で、物故者への供養として祭祀を行なった流し供養の跡と考えられる。

9 関係文献

〔財山形県埋蔵文化財センター〕『後田遺跡・大道下遺跡第二次発掘調査報告書』（一九九七年）

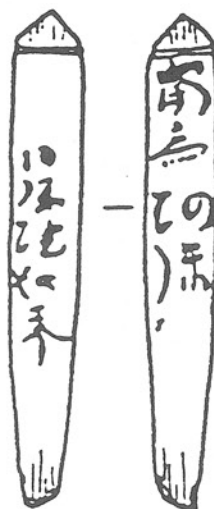
（野尻 侃（財山形県埋蔵文化財センター））



(3)



(2)



(1)